

ぷらっと子どもの森 はじめました 子どもたちが自由な発想でみどりと触れ合える機会をもっと

まつど暮らしの森会議 ぷらっと子どもの森グループ 野口 功

子どもたちに森で気楽に過ごすひとときを

松戸で「ぷらっと子どもの森」という新しい試みが始まりました。「気軽に ぷらっと行って遊べる森」—そんなイメージで名づけられました。まだ「いつでも」とはいきませんが、1~2カ月に一日、常盤平駅北口近くの「囲いやまの森」で行われます(開催月の第2日曜日、午前10時~午後1時。雨天の場合は翌週の日曜日)。遊具は、長大ブランコ、木登りネットくらいしかありませんが、里やまボランティアのベテランたちが、森での過ごし方や遊びをいろいろとアドバイスをしてくれます。虫探し、木や竹切り体験、森の工作や探検などなど。これからの季節、森の中でゆっくり過ごすのも快適です。

増えてきた子育て支援団体と里山活動の連携

松戸は、街中のあちこちに小さな森がありますが、十分管理しきれていないのが実情です。それを素敵な自然空間によみがえらせるのが里やまボランティア活動。その輪が広がっています。さがけは1995年に活動が始まった関さんの森。2004年からは里やまボランティア入門講座の修了生による里やま活動団体が次々に生まれ、「松戸里やま応援団」として連携した活動を展開しています。2012年には、整備した森をいっせいに市民に公開する「オープンフォレスト in 松戸」が始まり、以降は毎年春の開催で11回を数えています。身近な森で自然を体験できると好評で、春の1週間だけではなく、もっと機会を増やしてほしいという希望が、参加者から寄せられていました。また、NPO法人「子どもとまつど」の「森であそぼう」プロジェクトも、いくつかの森で毎年行われてきました。こうした積み重ねを経て、2020年11月には、子育て支援など多数の市民団体と里やまボランティア団体が連携した森の開放イベント「第1回 あそびの森」が開催されるまでに発展してきました。

「暮らしの森会議」と「ぷらっと こどもの森」

こうした活動が2021年、県が主催する「第1回 ちば里山アワード」で最優秀の里山大賞を受賞しました。それを機に里やま応援団は、講演会「つなごうよ 森と地域と子どもたち ~自然のなかではぐまれるもの~」を開催し、都市の森をいっそう活かしていく道を模索してきました。さらに、他分野の市民団体や学者・研究者、行政などと一緒に都市の森のこれからについて考える場として、今年4月に「暮らしの森会議」が発足しました。その話し合いの中で、「年1回のオープンフォレストだけでは、そのとき限りで終わっちゃうのが惜しい。森の親しみもふだんの暮らしになかなかつながっていかないよね」「もっと森と気軽につきあってもらえる機会を増やしたいな」という意見に多数のメンバーが賛同。そこからスタートしたのが「ぷらっと子どもの森」です。決まったスケジュールやプログラムを用意するのはあえてやめよう。子どもたち、親子で「ぷらっと」立ち寄って、自由な発想であそべる森がいいのではないかと——イベント名もそんなイメージから付けられました。まだ始まったばかりの「ぷらっと子どもの森」。これからどのような姿に育っていくのかを楽しみに、森が好きな仲間たちと続けていきたいと思えます。

